



5年生が河内伝統工芸のコツラ細工を体験しましたその1

1月31日(月) 2~4限目を使って、河内社会福祉協議会の主催でコツラ細工教室を行いました。毎年5年生が体験していますが、いつも伝統工芸の奥深さに感心させられます。参加した児童は難しいといいながら、地域の講師の皆さんに手ほどきを受けながら、小物入れを作りました。私(校長)も昨年体験させていただきましたが(今年は新井先生・藤田先生が体験しました)なかなか難しく、うっかりすると乾いて堅くなって折れてしまったり、3本ずつ編むところを4本にしてしまったり後で気がついてやり直しになってしまったり。でも出来上がったものはすごく温かみのある愛着がわくものになりました。子どもたちも出来たかごを持って満足そうでした。

コツラ細工は、河内の農閑期の元々は男の方の作業だったそうです。今年は、30年ほど前に河内小学校に勤務しておいでた鳥越在住の川崎正美先生が15年ほど前に作ったコツラ細工の唄をミニコンサートとして全校で一緒に歌いました。(写真裏面)コツラ細工と同じように温かさを感じる唄にジーンときたのは私だけだったでしょうか。こんな河内ならではの体験を通して、河内にくらし学ぶ「誇り」を感じてほしいと思います。



コツラ細工を体験しましたその2 ミニコンサートの様子から



河内・コツラ細工の唄

詞 川崎正美 曲 中西剛明

かやぶきの屋根に 雪が積もり

囲炉裏の炭は 赤くもえ

山里に冬が おとづれると

村の男は コツラをあむ

山から採ってきた マタタビの枝

細ながく割って 釜でむす

皮をはいで 作ったヒモを

手間ひまかけて あんでいく

☆ふしくれだった 父さんの指が

ひと目ひと目 あみこんでいく

コツラ細工 丈夫で長もち

子どもがそばで 見つめている

できたソーケやナタエコ。ザルを

町のお店に 売りに行く

炭を焼いて くらしてきた

山の男の 冬仕事だった

☆くりかえし

2日の日曜日、2回目のアンサンブル金沢特別合唱団の合同練習でした。

前号でもお知らせした11日の市制15周年記念、アンサンブル金沢公演の特別合唱団の2回目の合同練習が2日日曜日、会場の松任文化会館ステージでありました。本番に向けて緊張感のある練習でした。河内の3～6年生もとてもがんばっていました。

